

時	ねらい	学習活動	評価規準・場面・方法	資料および指導・援助
1 モンゴルの襲来と日本	元寇の後、徳政令などの失政により、鎌倉幕府への反感が高まったこと、幕府を支える御家人が困窮し力を弱めたことが原因で、初の武家政権である鎌倉幕府が滅亡したことを理解するとともに、室町幕府成立するまでの社会変化について関心を持つことができる。	<p>1、鎌倉時代の東アジアの様子を調べ、本時の課題を設定する。</p> <p>元寇を退けた鎌倉幕府が滅亡したのは、なぜか。</p> <p>2、追究の視点を提示し、資料から調べる。</p> <p><課題追究の視点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉幕府の行なった政治 ・御家人の生活 <p>3、調べたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元寇の後、御家人に十分に恩賞を与えなかったから、御家人が貧しくなり不満をもった。 ・貧しい御家人を助けるために徳政令をだしたけれど、ますます御家人が困るようになって逆効果だ。 ・北条氏だけが領地を増やしているから、御家人たちはますます不満をもって、北条氏に従わなくなった。 <p>4、単元を貫く課題を、設定する。</p> <p>《単元を貫く課題》</p> <p>鎌倉幕府が滅びた後、日本の社会はどのように変化したのだろうか</p> <p>5、本時のまとめをする。</p>	<p>アー</p> <p>鎌倉幕府の崩壊後の日本で、どのような人物が政権をにぎったのか、また2つ目の武家政権である室町幕府の行なった政治について、関心を高めようとしている。</p> <p><場面>授業後</p> <p><方法></p> <p>ノートの記述(授業後の感想)から、単元を貫く課題について疑問をもつことができたか分析する。</p>	<p>「モンゴル帝国の拡大」(教科書)</p> <p>「元寇」(歴史年表資料)</p> <p>「永仁の徳政令」(教科書)</p> <p>「分割相続と鎌倉の御家人」(正進社「歴史の資料」)</p> <p>「北条氏の勢力の拡大」</p> <p>援助 鎌倉幕府がなくなった後、だれが武士たちの指導者となるのかを話し合わせる</p>
2 南北朝の動乱と東アジアの変動	建武の新政の後、南北朝の争乱を経て、足利尊氏が再び武家政権をうちたてたこと、また半済令により守護の力が伸び、有力な守護大名が連立する室町幕府が成立したことが理解できる。	<p>1、建武の新政、南北朝の争乱について、資料から読み取り、後にできた室町幕府について、本時の学習課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建武の新政といっても公家中心の政治で、武士に対する恩賞が少ない。日本が2つに分かれ、対立してしまっていたが、尊氏はどうしたのか。 <p>尊氏はどのように国をまとめたのだろうか。</p> <p>2、足利尊氏の政治について、資料から調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室町幕府は、基本的には鎌倉幕府のしくみを受けついでいる。武士による政治をすることで、武士たちをまとめようとしているようだ。 ・南北朝の内乱を有利に戦うために、守護が国の年貢の半分を受け取ることができるようにした。これで、力をもった守護大名を生み出すもとなった。 ・室町幕府の力は弱そうだ。守護大名をどのようにまとめるのだろうか。 <p>3、本時のまとめをする。</p>	<p>エー</p> <p>建武の新政後、足利尊氏が再び武家政治をうちたてたこと、南北朝の騒乱のなかで出した半済令によってか守護大名が力を強めたことを、理解している。</p> <p><場面>活動2のなかで</p> <p><方法></p> <p>ノートへの記述や発言愛用から、室町幕府の基本的なしくみと守護大名の勢力拡大が理解できているか分析する。</p>	<p>「二条河原の落書」</p> <p>「足利尊氏と南北朝の対立」(歴史年表資料)</p> <p>「室町幕府のしくみ」</p> <p>「半済令」(歴史年表資料)</p> <p>鎌倉幕府の仕組みと比較させ、「守護大名」が登場したこと、地頭を支配するようになったことに気づけるようにする。</p>
3 室町幕府と経済の発展	室町幕府が行なった日明貿易のねらいを理解するとともに、貿易と社会の発展の影響で、地方にも貨幣経済が浸透し、市が発達したり、現代にまでつく産業が農村から発達したりしたことがわかる。	<p>1、室町時代の東アジア世界の変動について、資料から読み取り、本時の課題を設定する。</p> <p>足利義満は日明貿易を始めたのは、なぜか。</p> <p>2、日明貿易の利益について、資料から調べる。</p> <p>視点 ・日明貿易の利益 ・義満の行なった政治</p> <p>3、調べたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日明貿易では幕府は明銭を手に入れている。これで義満は守護大名より財力をつけている。 ・義満は明の皇帝から「日本の国王」として認められている。認められるために貿易をしているのだろうか。 ・貿易でつけた力で、南北朝の争乱を終わらせている。 ・義満は有力な守護大名を討って、幕府が日本をまとめるようにしている。 <p>4、東アジアとの貿易や、社会の安定によって、各地でも産業が発達したことをまとめる。</p> <p>5、本時のまとめをする。</p>	<p>ウー</p> <p>足利義満が日明貿易を始めた理由は、経済的な利益と、「日本国王」の地位を手に入れ、日本をまとめることであった点を読み取っている。</p> <p><場面> 活動2・3の中で</p> <p><方法></p> <p>ノートの記述や発言内容から、日明貿易で義満が莫大な利益を手に入れたこと、明との関係をもとに日本をまとめたことに気づいているか分析する。</p>	<p>「足利義満の国書」</p> <p>「室町幕府の財源」(歴史年表資料)</p> <p>援助 追究の視点が同じ生徒の意見を聞かせ、どの資料から、何を讀みとったのかをメモさせる。</p>
		<p>足利義満は、幕府の財源を増やして「日本国王」の呼び名をもらうために、日本から貢ぎ物をしてまで日明貿易を行なったのだとわかった。日本もまとまってきているし、貿易でゆたかになって社会全体も安定した。岐阜県でもいろいろな産業が発達してきている。民衆にとって、よい時代になってきたのだろうか。</p>		

